



2月も中盤、本年度も最終コーナーを回り、いよいよゴールが間近になりました。

## 守破離

1年生の授業。数年前から学習が始まったプログラミングに挑戦中です。「ビスケット」というアプリを使っているようです。メガネの片方に入れた図形が、もう片方の図形に変わる。それが連続的に変わるので、あたかも動いているように見える。今日は、楽しい水族館を描いているようです。

同じ水族館とはいえ、みんな違う。プロンプト（プログラムを促す命令文）が絵ということもあり、個性豊かな一人一人の水族館が出来上がりつつありました。素敵です。

同じなのに違う。

こどもまんなか社会元年といわれる令和5年度。こども基本法が施行され、熊本市でもこの4月にこども局が新設されます。2020年に発表された「熊本市こども未来輝きプラン2020」のくまもとの子どもの目指す姿には、次のように書いてあります。

- 1 一人ひとりが大切にされ、幸せに思う
- 2 自分の力で輝いて育つ
- 3 安心・安全に生活し、元気に成長する

とても大切な、こどもまんなか社会の視点ですね。

ただ、このような子どもに育つためには、何もしないわけにはいかない、とも思うのです。それは、ある意味何もしない「放任」や、子どものやりたい放題を許す「甘やかし」ではないはず。

息子の通っていた空手教室の先生から、「守破離<sup>しゅぱり</sup>」という言葉を教えていただいたことを思い出します。

ある意味一人一人が違うように生まれてきた子どもたちだから、個性豊かに育てるのは大切です。しかし、生まれつき個性豊かな子どもたちに、「個性をしっかり伸ばせるように自由にさせる」と、むしろ個性豊かに自由にできなくなることがある。だから、空手では「型」をまず学びます。「型」を「守る」ことから始め、その「型」に深く精通するからこそ、自分の個性に気づき、「型」を自分の個性に合わせて「破る」ことができるようになる。一人前です。



さらに、先生の話は続きます。

一人前になったからこそ、「型」を「離れる」勇気を持ち、自分の個性を自由闊達に表現できるようになる。それこそが、本当の個性がのびる瞬間なのです。

深く納得。

学校（や家庭）にあるきまりや習慣は、ある意味、子どもたちが個性豊かに成長するための「型」。しかし、それを「守る」ことが決して目的ではなく、「守る」ことを通してその意味を深く考え、自分らしく解釈する。その上で、疑問があったら変えることもいとわず、わたしの社会を自律的に生きるためのシステムを創ることが大切なのではないかと思います。